遺伝要因、生活習慣の組み合わせと高血圧発症の関連：東北メディカル・メガバンク地域住民コホート調査

高瀬 雅仁
東北大学大学院医学系研究科

【目的】ポリジェニックリスクスコア（PRS）と生活習慣の組み合わせと高血圧発症の関連について検証した。

【方法】東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査におけるベースライン調査と詳細二次調査に参加し、ベースライン調査時に高血圧のある者を除外した8,074名を解析対象とした。生活習慣スコアは、肥満、飲酒、身体活動、高ナトリウム/カリウム比の各項目1点の4点満点で評価し、0-1点（良好）、2点（中間）、3-4点（不良）の3群に分類した。PRSはバイオバンク・ジャパンのゲノムワイド関連解析の結果を用いて構築し評価した。PRSを3分位数を基に分けた3群と生活習慣スコアの3群を組み合わせ9群とした。高血圧の定義は収縮期血圧140mmHg以上又は拡張期血圧90mmHg以上又は高血圧の通院中と回答定義した。ポアソン回帰分析を用いてPRS低値、生活習慣スコア良好群を基準とした他群の相対リスク（RR）と95％信頼区間（CI）を算出した。

【成績】平均年齢は57.8歳、平均観察期間は4.4年で、追跡期間中に2943名が高血圧を発症した。PRS低値、生活習慣スコア不良群のRRは1.18（0.98-1.41）PRS高値、生活習慣スコア良好群のRRは1.26（95%CI:1.09-1.45）であり、PRS高値、生活習慣スコア不良群のRRは1.50（95%CI:1.28-1.75）と最も高かった。

【結論】遺伝リスクが高い者には生活習慣の管理をより厳密に行う必要が示唆された。